

はじめに

受験というものが一大産業となって、どのくらいが経過したでしょう。学校とは知性を養うための教育機関だったはずですが、今では塾と並んで試験をパスするための訓練施設となっています。

していることはほとんどが暗記。人はコンピューターではないのですが、高性能マシンを輩出することを目的にしているがごとく各学校が競争しているのもちろんのこと、都会では幼稚園までもが進学を考慮し

て選ばれているようです。

よって、学校では本質的なことには一切触れません。受験が終われば徐々に忘れてしまうであろう、人生にとって重要でもないことを頭に詰め込むため、他にも多くを吸収できるはずの若者が多感な時期を受験勉強に費やしているのです。

当然の結果、人としての本質的なことには関心を持たないような大人が社会が増えてきます。人間は動物の一種でもありますから、庇護を受けていなければ肉体生命を維持するために経済活動が必要です。

その経済活動に関心を持つ人はとても多いのですが、知的生命体として「経済」は本質的なテーマではありません。

裏を返すと、知的生命体として本質的なことを取り上げても金儲けにはならないため、それらをテーマに活動をする人もあまり出てこない、というのが実情でしょう。

そんな状況下でも、人の本質的なことに興味があるという方が少しはいらっしやるはず。

そこで、私が幼少時から感じていた「素朴な疑問」のいくつかをまと

めてみました。重くなりがちなテーマを軽いタッチで書き進めていこうと考えています。

何が正解で何が不正解なのか試験問題のようにはハッキリしていないテーマについて、共に考えを巡らせてみましょう。

答えを求めて考えるという行為は、マシンではない「人」だからこそできること。

そんな「人」らしい時間を私と少しだけ共有しましょう。

石井 数俊